

令和 4 年度小中連携による学力向上推進地域指定事業実施計画

吉野ヶ里町立東脊振中学校

校長 森田直樹

1 研究テーマ

「小中連携による基礎学力を身につけ、かつ主体的に学ぶ児童生徒の育成」
～基礎学力の定着と、学習マネジメント力を高める指導方法の工夫～

2 研究のテーマ設定の趣旨

令和 3 年度の研究では、基礎学力と学習マネジメント力の向上を目指し、以下の項目に取り組んだ。

- ・ 基礎・基本を確実に習得させる授業づくりを目指す。そのために、全教員が異教科・他教科からなる 4 つの授業チームに分かれ、指導方法の工夫を共有する。このことにより、授業改善の視点を多方面からもつ。
- ・ 小中相互授業参観「月一さんぽ」を通して、小学校におけるきめ細やかな指導方法を学び、中学校での学習場面に生かす。
- ・ 「授業づくりのステップ 1・2・3」を活用しながら、具体的な「めあて」の提示や、生徒の言葉による「まとめ」と「ふりかえり」に取り組ませることにより、生徒が課題意識をもって、主体的に学ぶ力を育むことにつなぐ。
- ・ 生徒会との協働による「月 1 満点テスト」や、ICT の利活用によって、基礎学力の向上を目指すことを通して、生徒たちが主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- ・ 生徒が、自分自身の授業の受け方を見直し、学習内容の理解について振り返る場面を授業の中に設定する。また教師は、生徒の振り返りの結果をうけて、学習指導の在り方を改善する。
- ・ 「生活リズム記録表」を作成し、「計画－記録－振り返り－見直し・修正」のサイクルを、生徒自身が自分ごととして実践する場面を設定することによって、家庭学習に計画的に取り組む生徒を育てる。

また、職員は「授業実践部会」「学習環境部会」「家庭学習部会」の 3 部会に分かれ、それぞれの部会が目指す目標の達成を目指した。

実践研究の過程で最も論点となったのは、「基礎学力」と「主体的に学ぶ」ことについてであった。

本年度の研究では、「基礎学力」を、「各教科の基礎的・基本的知識及びその使い方の技能」と定義し、生徒たちが「何を理解しているのか（知識）・何ができるのか（技能）」を認知した上で学習に取り組むことによって、主体的に学び、「基礎学力」を確実に習得する生徒を育てることを目指すこととする。

また、「主体的に学ぶ」とは、「学ぶことに興味関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」（中教審答申平成 28 年 12 月より）ことである。本校の生徒は、昨年度実施したマナー検定などを通して、将来の展望を意識しながら生活する生徒が、徐々にみられるようになってきたものの、自分の夢や希望に向かって確実に学習を重ねたり、生活を改善したりできる生徒は、まだまだ少ない。そこで、本年度は「主体的に学ぶ生徒」の育成を重点課題ととらえ、「（夢や希望をもち、それを実現するために学びに）向かう力」及びそれを支える「やりぬく力（ルーティーン力・タイムマネジメント力）」「見つめる力（自己理解・振り返る力）」を「学習マネジメント力」として、育成を目指すこととした。

3 取り組むテーマの成果指標及び目標

(1) R4年度

<p>成 果 指 標</p>	<p>①県調査の各教科の平均正答率で、同一生徒による学校の正答率の対県比 【共通】 ・ 中学2年生 実施教科（5教科） （R3一県調査【中1時】とR4一県調査の比較）</p> <p>②「授業改善リーフレット（授業づくりのステップ1・2・3）を活用して授業づくりや授業の振り返り、指導案作成などを行っている」と考える教員の割合</p> <p>③「1週間当たりの家庭学習総時間を確保し、取り組むことができた」と考える生徒の割合</p> <p>④『月1満点テスト』やタブレットPCを用いたドリル活動によって、基礎学力が向上した」と考える生徒の割合</p> <p>⑤「夢をかなえる勉強期間」（テスト勉強期間）に「計画的に取り組むことができた」と考える生徒の割合</p> <p>⑥「生活リズムの記録を通して、生活リズムが整った」と考える生徒の割合</p> <p>⑦「指導内容や方法等について、小学校と連携できている」と考える教師の割合 【中学校区共通】</p>
<p>成果指標の目標</p>	<p>① 2年生（12月実施） （現状R2／小6）⇒（R3／中1）⇒（目標） 国語 0.85 ⇒ 0.98 ⇒ 1.00 社会 0.86 ⇒ 0.92 ⇒ 0.94 数学 0.82 ⇒ 1.07 ⇒ 1.09 理科 0.90 ⇒ 1.15 ⇒ 1.17 英語 ⇒ 0.95 ⇒ 0.97</p> <p>② 「肯定的」回答の割合 （R4／2月） （目標） （結果） 81.2% ⇒ 85% ⇒</p> <p>③ 「肯定的」回答の割合 （現状） （目標） （結果） 調査なし ⇒ 75%</p> <p>※ R3年度調査「計画的に家庭学習に取り組んでる」と考える生徒の割合は71.2%（2月）であった。 ※「家庭学習に取り組んでいる・だいたい取り組んでいる」と考える生徒の割合は70.5%（R4.5.20現在）</p> <p>④ 「向上した」と考える生徒の割合 （R3／12月） （目標） （結果） 84.8% ⇒ 88% ⇒</p> <p>⑤ 「（テスト勉強の）計画を立て、実行することができた」と考える生徒の割合 （R3／11月） （目標） （結果） 50% ⇒ 75% ⇒</p> <p>※「5月の課題テストに向けて勉強を進めている」と考える生徒の割合は86.3%（R4.5.20現在）</p> <p>※「5月の課題テストに向けて、フォーサイト手帳に計画を立てて取り組んでいる」と回答した生徒の割合は39.0%（R4.5.20現在）</p> <p>⑥ 「自分の生活習慣（起床時間・就寝時間）を把握し、安定することができた」と考える生徒の割合 （R3／11月） （目標） （結果）</p>

	<p>55.3% ⇒ 70% ⇒</p> <p>※「フォーサイト手帳に生活リズムを記録することを通して、自分の生活リズムが整ってきた」と考える生徒の割合は83.6% (R4.5.20 現在)</p> <p>⑦「できている・大体できている」と考える教師の割合 (R4/2月) (目標) (結果) 25% ⇒ 60% ⇒</p>																											
<p>目標達成のための 取組</p>	<p>① 各教科における「基礎的・基本的知識及び技能」を身に付けさせるための手立てを明確にし、授業で実践する。その際、ドリル活動のみならず、「喜んで、面白く、やりたいな」と、主体的に学習に向かう気持ちを高めるための工夫を盛り込んだものにする。また、研究授業を通して、実践を共有し合う。 【授業実践部会】</p> <p>② 「ステップ1・2・3」の「ステップ2・3」を目指し、生徒自身に「何を理解しているのか(知識)・何ができるのか(技能)」を認知させて学習に向かわせる。そのために、「単元計画表(実行表)」を各教科または各教員で作成し、生徒に示して授業を行う。 【授業実践部会】</p> <p>③ 家庭学習に確実に取り組ませる。1週間当たりの学習総時間数として、以下の時間を指針として目指し、時間の確保と内容の充実を目指す。帰りの会「P-time」で、家庭学習の時間帯と内容をフォーサイト手帳に記入させる。 《1週間当たりの総時間数》</p> <table border="1" data-bbox="475 902 1444 1048"> <thead> <tr> <th colspan="3">1年</th> <th colspan="3">2年</th> <th colspan="3">3年</th> </tr> <tr> <th>1学期</th> <th>2学期</th> <th>3学期</th> <th>1学期</th> <th>2学期</th> <th>3学期</th> <th>1学期</th> <th>2学期</th> <th>3学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8hr～</td> <td>9hr～</td> <td>10hr～</td> <td>11hr～</td> <td>12hr～</td> <td>13hr～</td> <td>14hr～</td> <td>15hr～</td> <td>16hr～</td> </tr> </tbody> </table> <p>【家庭学習部会】</p> <p>④ 生徒会と連携した「月1満点テスト」を実施する。また、タブレットPCを活用したドリル活動に取り組む場面を設定する。 【学習環境部会】</p> <p>⑤ テスト勉強期間(テスト前2週間)を「夢をかなえる勉強期間」と名付け、以下の点に取り組むことによって、家庭学習の活性化を図る。 ア フォーサイト手帳にテスト勉強の計画・実行について記入させる。 イ 計画立案のための時間を学活の時間に確保する。 ウ テスト前に、テスト勉強に関する目標と家族へのお願いを書き、家族に渡して、家庭学習の支援を依頼させる。テスト後に、テスト勉強への支援に対する感謝メッセージを書き、家族に渡させる。 エ テスト範囲表を、チェックリスト形式に変更する。 【家庭学習部会】</p> <p>⑥ フォーサイト手帳の使用により個人内で Plan-Do-See サイクルに取り組ませる。起床時間・就寝時間・家庭学習時間を日々記録させる。 【学習環境部会】</p> <p>⑦ 「月一さんぽ」を、全職員が年間1回以上行い、小学校での指導技術を学ぶ機会を設ける。</p>	1年			2年			3年			1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	8hr～	9hr～	10hr～	11hr～	12hr～	13hr～	14hr～	15hr～	16hr～
1年			2年			3年																						
1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期																				
8hr～	9hr～	10hr～	11hr～	12hr～	13hr～	14hr～	15hr～	16hr～																				

4 事業期間

令和4年4月 ～ 令5年3月

5 実施・研究内容

(1) 協議・検討のための会議等の設置

主な構成等	開催予定回数
○学力向上に係る小中連携推進委員会 管理職、教務主任、研究主任、学力向上対策コーディネーター	7回
○小中合同研修会 全教員	1回
○校内研究推進委員会 管理職、教務主任、研究主任、学力向上対策コーディネーター、各学年代表(主任等)、学力向上推進教員	13回
○校内研究会	13回
○授業研究会(公開授業及び小学校からの参観1回を含む)	7回

(2) 予定している主な調査・研究活動

<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸調査について、校種や教科の枠をこえての分析 ・ 各教科における「基礎学力を身に付けさせるための手立て」の整理 ・ 各教科における「単元計画実行表」の作成と実践 ・ 研究授業(小学校とも相互参観を行う) ・ 生徒の実態調査

(3) その他、当事業において実施する事項

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上通信の発行 ・ 教師対象の学力向上についての講演会の開催

6 期待される効果

- ① 全教員が4つの授業チームに分かれ、異教科間で基礎学力を身に付ける指導方法の工夫を共有することにより、授業改善の視点を多方面からもつことにつながる。
- ② 「授業づくりのステップ1・2・3」を活用しながら、具体的な「めあて」の提示や、生徒の言葉による「まとめ」と「ふりかえり」に取り組みせることにより、「何を理解しているのか(知識)・何ができるのか(技能)」を認知させて学習に向かわせることができる。
- ③ フォーサイト手帳への家庭学習の時間帯と内容の記録を確実にを行うことにより、家庭学習の習慣化を目指すことができる。
- ④ 生徒会との協働やICTの利活用によって基礎学力の向上を目指すことで、生徒たちが主体的に学習に取り組む態度の育成につながる。
- ⑤ 「夢を追かなえる勉強期間」における家庭学習の活性化により、「プランニング力・タイムマネジメント力・ルーティン力・振り返り力」の向上を図ることができる。
- ⑥ 日々の生活におけるフォーサイト手帳の使用により、個人内でPlan-Do-Seeサイクルに取り組ませることができる。
- ⑦ 「月一さんぽ」により、小学校での指導の工夫点などを学び、中学校での指導に生かすことができる。